

医学部 医学科 カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、「熊本大学医学部医学科学修成果」を定めています。教養教育で身に付けた幅広い分野の知識を素地とし、別に定める熊本大学学士課程教育修了時に獲得が期待される「学修成果」に加え、7つのコア学修成果（大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献）とそれぞれの下位に属する総計50の学修成果（小項目）を獲得するために編成された教育課程を学修し所定の単位を取得、これら学修成果を獲得した者に学士（医学）の学位を授与します。

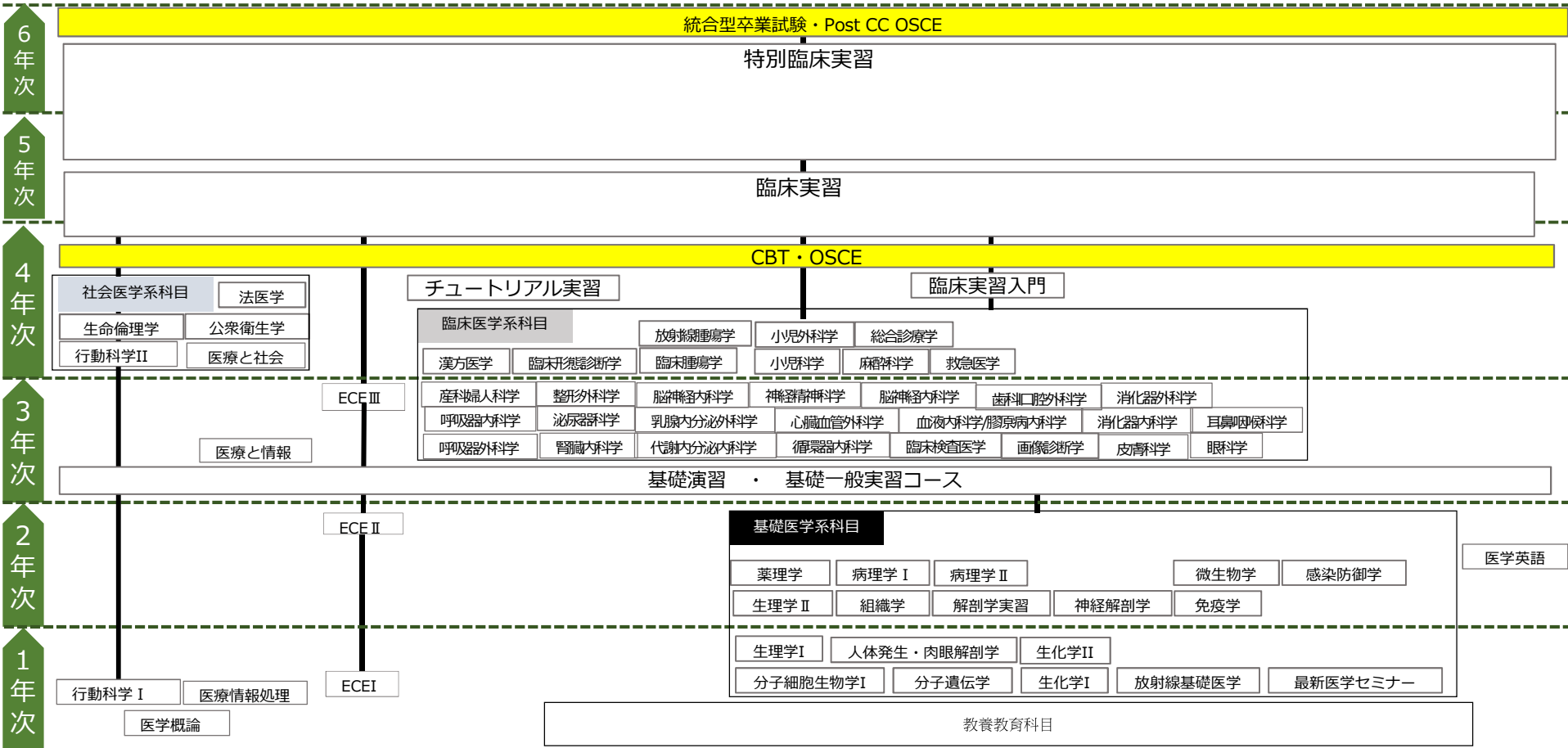
カリキュラムポリシー：熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、医学科学生が卒業する際に獲得しているべき能力を明文化した「熊本大学医学部医学科学修成果」を定めています。これは、7つのコア学修成果（大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献）と、それぞれの下位に属する総計50の学修成果（小項目）からなります。医学科ではこれら学修成果を学年進行に応じて段階的に学修し、卒業時にはすべての学修成果を獲得できているようにカリキュラムを編成しています。

体系性：学修成果を獲得するため、各分野の学問体系に従った教育課程をバランスよく編成しています。

段階性：教養教育では幅広い分野を学び、学年進行に従って段階的に学修成果を獲得できるよう編成しています。

個別化（進路への対応）：学修成果を獲得することにより、臨床医だけでなく医学研究者や医療行政担当者まで、様々な進路に対応できるようになっています。

豊かな人間性 病める人たちがその家族の気持ちを理解した対応がとれる。	自己研鑽とプロフェッショナリズム 医師あるいは医学者としてのキャリアを継続し、生涯にわたって自己学習を継続することができる。	チーム医療と信頼される医療の実践 医療は患者を中心におき、多職種の医療構成員よりなるチームで実践されることを理解する。	地域医療と社会貢献 地域医療の現状と問題点を認識している。	基本的診療能力 医師となるにふさわしい、統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。	医科学研究 旺盛な科学的探究心を有する。医学研究の基本を理解し、既存の研究成果を論理的かつ客観的に評価できる。	国際的視野 社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び保健の現状を理解する。
--	--	---	---	--	---	---

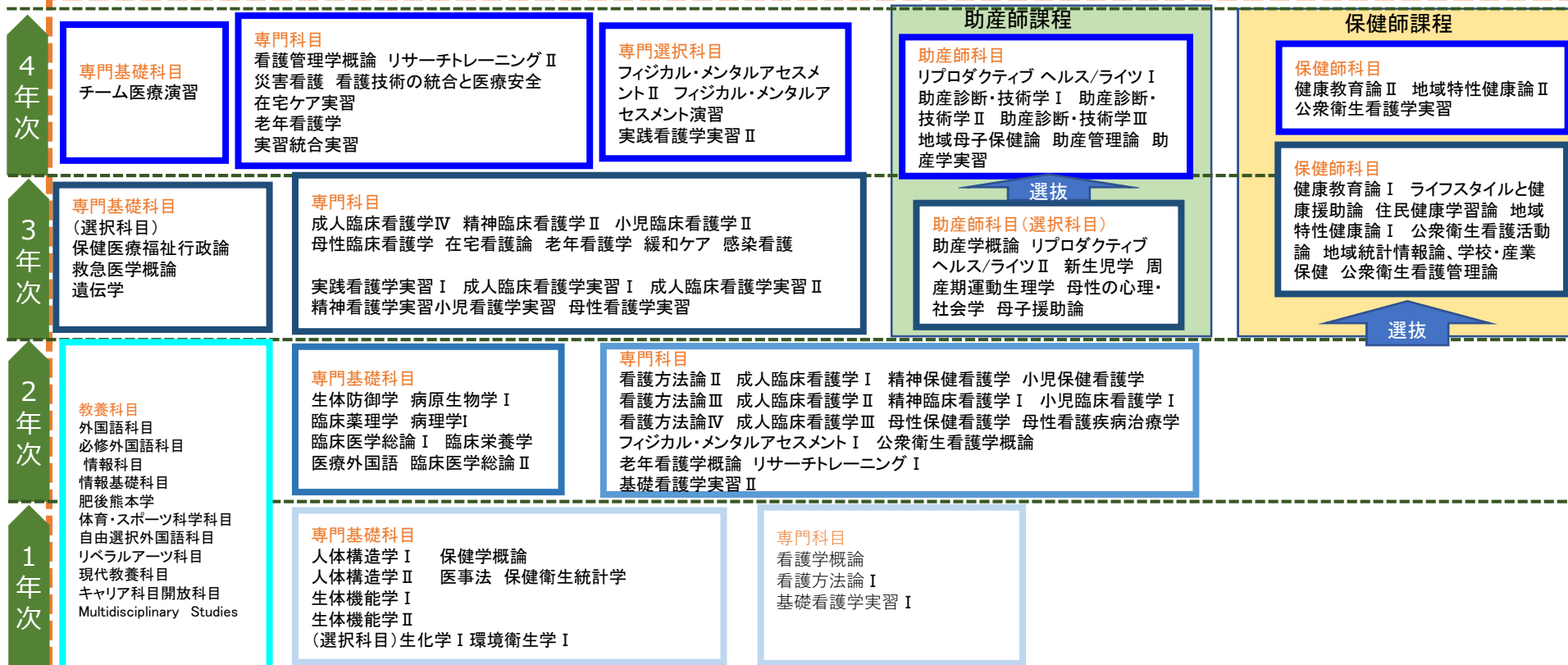


医学部 保健学科 看護学専攻 カリキュラムツリー

ディプロマポリシー: 命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観および確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人の育成を行う
豊かな教養ある人間性と倫理観、高度な専門性と探求心、地域に根ざした保健・医療・福祉の発展に寄与できる力、援助関係を構築できるコミュニケーション力、多様性の理解と国際的な視野を持つ医療人の育成を行う

カリキュラムポリシー: 1. 体系的性: 看護学分野の学問体系を基盤とし、看護師・保健師・助産師の国家資格取得に必要な科目群を系統的に学修できるように教育課程を編成しています。
2. 段階性: 教養教育において履修を必須とする「人文・社会」及び「自然・生命」学系を始めとした基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修できるように編成しています。
3. 個別化(進路への対応): 各年次に看護学専攻を構成する専門的な授業科目を置き、将来の進路(看護師・保健師・助産師)に則した科目履修を保证するように編成しています。

豊かな教養 <ul style="list-style-type: none"> 人間の成長発達や人間の心理学的現象について必要な知識を説明できる。 社会学や哲学を通し、人と環境との相互作用に関する知識を説明できる。 自分の課題や関心において、自発的に学習することができる。 	確かな専門性 <ul style="list-style-type: none"> 看護学のメタパラダイムである人間、環境、健康・保健、看護に関する理論を説明できる。 からだやこころの構造・機能、疾病に関する病態生理が説明できる。 看護実践において必要とされる知識と技術を説明、実施することができる。 	創造的な知性 <ul style="list-style-type: none"> 看護学における課題を設定し、解決することができる。 関心領域や社会的問題の事象に関し、討議することができる。 	社会的な実践力 <ul style="list-style-type: none"> 人との間で相互作用をし、相手のおかれている状況を理解し、説明できる。 看護以外の社会における現象に関心を持ち、一市民として参加することができる。 	グローバルな視野 <ul style="list-style-type: none"> 国際的に必要とされる英語を用いて看護学に関する現象を話すことができる。 外国語運用能力を用い国際的な視野で看護学を構築するためのコミュニケーションが実施できる。 	情報通信技術の活用力 <ul style="list-style-type: none"> 課題に応じて情報処理技術を駆使し、目的に対する情報分析を行うことができる。 	汎用的な知力 <ul style="list-style-type: none"> 他分野の専門家と情報を交換し、自分の立場で意見を述べることができる。 自分の関心領域に関する文献、図書を検討し、理解し、要約して人に伝えることができる。
---	--	---	--	---	---	---



医学部 保健学科 放射線技術科学専攻 カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

放射線技術科学専攻は、学士課程において、保健学科共通のディプロマポリシーに加え、以下の医療人の育成を目的としています。

- 高度な専門的知識と安全管理能力
 - 医療従事者としての放射線技師の役割を理解し、高度に専門的な検査機器の知識と技術だけでなく、安全・管理に係わる知識と責任を兼ね備えている
 - 革新を続ける医療技術に対応できる、国際的感覚を備え自己研鑽に常に取り組みることができる
- 研究・開発に関する能力：医療機器を用いた研究・開発に取り組める能力だけでなく、倫理観を兼ね備えている
- 医療チームの一員としての能力：医療従事者の1人として、チームを意識した活動を志せる

カリキュラムポリシー：

- 体系性：科目の学習成果を修得できるように、各分野の教育課程をバランス良く編成しています。
- 段階性：教養教育において履修を必須とする「人文・社会」学系を始めとした基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って、各分野ごとに基礎と演習、実習を対ついにしたカリキュラムを組み、段階を経た効果的な学修を可能にしています。
- 個別化（進路への対応）：臨床への進路だけでなく、医療技術に根ざした科学研究を行えるように、バラエティーに富む研究テーマを用意し、産業界への進路も視野に入れた対応を行っています。

豊かな教養

・教養のある社会人として、医業学だけでなく人文・社会・理工学に造詣がある。

確かな専門性

・放射線技術科学における診療機器類の原理を理解し、安全に運用ができる。
 ・放射線技術科学における画像検査技術と放射線治療技術を修得し、説明できる。
 ・法規制にしたがった放射線の安全な取扱いと管理ができる。
 ・画像診断の過程を理解し、疾病との関連を論理的に説明できる。

創造的な知性

・業務の中での課題を的確に見だし、チームの一員として課題の改善や提案を自ら行える。

社会的な実践力

・高い倫理観を持ち合わせ、社会とチームが求めている放射線技師の役割を察知して実践できる。

グローバルな視野

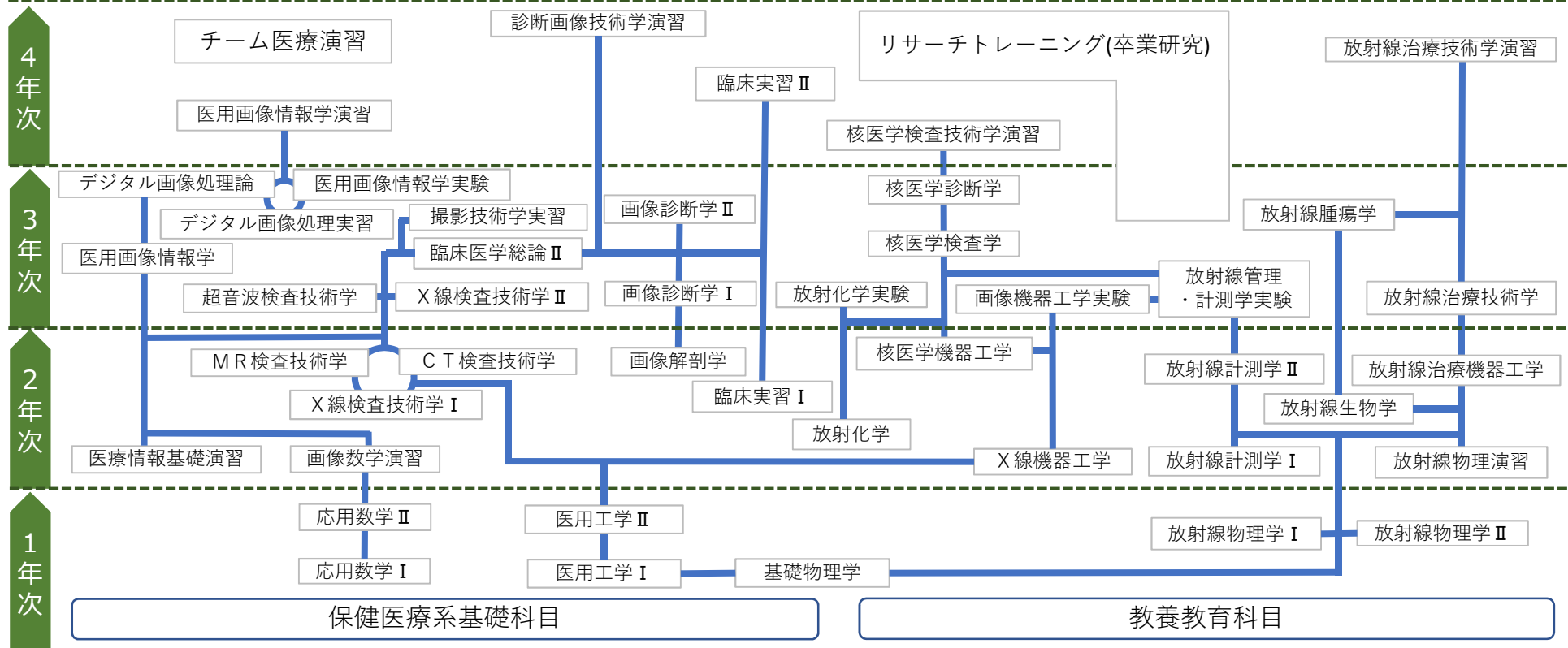
・病院内外での、放射線技師の立ち位置を理解し、課題があれば率先して取り組める。
 ・国際的な課題を他言語で取り組む能力を持つ。
 ・国際的に活躍する実践力を持つ。

情報通信技術の活用能力

・医療データへの倫理的配慮を持ちながら、常に新しい情報通信技術への理解と学習を続けられる。

汎用的な知力

・他職種と連携を行うために必要な、平易な言葉での情報伝達能力と他者への理解能力を兼ね備える。



医学部 保健学科 検査技術科学専攻 カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

検査技術科学専攻は、学士課程において、以下の医療人の育成を目的としています。

1. 命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観、確かな専門知識と技術を基礎に医療技術の進歩や情報化に即応してチーム医療に対応できる
2. 社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことができる

カリキュラムポリシー：

- ・検査技術科学の学問体系を基盤とし、臨床検査技師の国家資格取得に必要な科目群をバランスよく学修できるように教育課程を編成しています
- ・基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用・発展的ならびに実務的な科目を学修できるよう編成しています。
- ・各年次に人体構造学や病理検査学、血液検査学、臨床化学、遺伝子検査学、免疫検査学、病原生物学、環境衛生・公衆衛生学、生理機能検査学、画像検査学、検査情報・機器管理学などの専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証するように編成しています。

<p>豊かな教養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と広い社会的視野を持つ。 	<p>確かな専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査技術科学の基本的理論・概念について説明することができる。 ・病気の診断治療や健康状態の把握に必要な医学的検査法に習熟している。 	<p>創造的な知性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査技術科学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。 ・課題に対する研究方法、解析技術等を理解し、柔軟な発想と論理的思考から仮説を検証できる。 	<p>社会的な実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持ち、医療従事者としての職業観、倫理観を培うことができる。 	<p>グローバルな視野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の文献を読解することができるようになるとともに、国際的視野で情報の収集・分析を行うことができる。 	<p>情報通信技術の活用力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITを利用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。 	<p>汎用的な知力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、情報や意見を伝えることができる。
---	--	--	---	--	--	---

